



誰もが**安心**して
住み続けられる

都営住宅に

みなさんの願い実現へ全力

日本共産党都議会議員

あぜ上三和子

「住みやすい制度に改善させます」



同居の子どもが
住み続けられる制度に

「一人暮らしは1DK」の
押し付けをやめさせます

親（名義人）が亡くなり退去させられた子ども（60歳以下）が「派遣」の仕事を失い、ホームレスになった例もあります。

自民・公明が認めてきた「使用承継」は元に戻し、「子ども（一親等）まで」認めさせます。

住宅建て替えなどの際、一人暮らしの人には基本的に1DKが押し付けられ、「孫が来ても泊まれない」

「訪問入浴サービスの浴槽が置けない」などの声が出ています。希望者には2DKなどにも入れるようにはしません。

「住まいは人権」
都営住宅をふやし充実します

住まいは、憲法が保障する「健康で文化的な生活」の基礎です。ところが東京都は、福祉を「せいとく」という石原都政（自民・公明が与党）以来18年間、建て替えるのみで、新規に都営住宅を1戸も建ててきませんでした。

都議会に出された「都営住宅の新規建設を求める陳情」に対して、自民・公明などは不採択にしました（左の図）。

日本共産党は、都政と都議会を変え、都営住宅を増やし、当面民間住宅への家賃補助制度をつくります。

老人ホーム
保育所を
身近なところに

「建て替えによる空き地などに老人ホームをつくってほしい」「保育所を増設してほしい」―みなさんの要望実現にむけてがんばります。

「都営住宅の新規建設を求める陳情」への態度

(2017年3月30日都議会本会議)

共産党	採 択
自民党	不採択
公明党	不採択
都民ファースト、その他	不採択